

森林域の別荘地におけるカラマツの管理と課題

Management for planted larch trees in resort villas in forested landscapes

長池卓男*1

Takuo NAGAIKE*1

*1 山梨県森林総合研究所

Yamanashi Forest Research Institute, Fujikawa, Yamanashi, 400-0502

要旨：別荘地に植栽されているカラマツ等の課題についての情報を収集することを目的に別荘地管理者に調査を実施した。カラマツに関しては、落葉の屋根への蓄積や雨樋のつまり、大きく成長したことにより日が当たらず風通しが悪い、枝の電線等への荷重や接触、芯ぐされ等による倒木の恐れ、景観・展望が悪くなった、などが回答された。また、ニホンジカやイノシシによる庭木や家庭菜園への影響なども指摘された。さらに、別荘所有者間の生態系サービスへの認識の違いを今後どのように解決するかが課題である。

キーワード：アンケート、生態系サービス、野生動物、トレードオフ

Abstract: To show issues in resort villas in forested landscapes, I conducted questionnaires survey to the manager in the villas. In such villas located in high elevation zones in central Japan, larch (*Larix kaempferi*) was mainly planted and caused several issues (e.g., accumulation of the fallen leaves on the roofs, less sunshine and bad view by well-grown trees, attachment to electric lines by branches, possible fallen trunks by butt-rot). Moreover, invasion of wildlife (e.g., sika deer, wild boar) was affected with planted trees and kitchen gardens. Conflict management among ecosystem services would be necessary among users with various backgrounds.

Key-word: Ecosystem services, Questionnaires, Trade-off, Wildlife

I はじめに

別荘地は、日常を離れ、非日常を楽しむ場である。森林内に位置する別荘においては、森林は非日常を形成する重要な要素となっている。また、別荘で過ごすことが避暑を兼ねることも多いため、高標高に位置していることも多い(5)。したがって、森林で高標高域に位置している別荘においては、そのような場所が生育適地であるカラマツ(*Larix kaempferi*)が植栽されていることが多い。

カラマツは落葉針葉樹の高木種で、樹高は 20m にも到達する(2)。高齢になるにしたがい、また立地によっては、芯ぐされ病等に罹患する個体も多く見られる(3)。別荘地が造成後に年数経過すれば、植栽木も成長する。それに伴い、別荘地において植栽されたカラマツなどには、どのような課題があり、それに対してどのような対応が取られているかを把握することは、今後の管理において重要である。

そこで本研究では、別荘地管理者にアンケート調査を実施し、カラマツを中心とした課題、それ以外の現在や今後の課題についての情報を収集することを目的に調査

を実施した。

II 方法

関東・中部地方でカラマツが植栽されていると思われる別荘地 65 箇所にアンケートと返信用封筒を郵送し、17 の別荘地から回答を得た。回答を得られた別荘地は、長野県 10 件(飯縄、白樺湖、富士見、野尻湖、軽井沢、蓼科 2、白馬、姫木平、原)、山梨県 4 件(山中湖 2、清里、鳴沢)、栃木県 2 件(那須 2)、不明 1 件であった。

アンケートは、大きく分けて以下の 2 つの質問に分かれる：「カラマツに関連して、別荘利用者からの苦情や事故はございますか?」、「カラマツ以外の樹木や動物等に関して、貴別荘地において『現在』および『今後』管理上課題となるようなことがございましたらご記入下さい」。それぞれの質問に該当する場合に、解決すべき課題やそれらへの対応について自由記述をお願いした。

III 結果および考察

カラマツに関する課題については、特に課題のない別

荘地が8件, 何らかの課題がある別荘地が9件であった。課題の内容は, 落葉6件, 日陰3件, 枝4件, 幹5件(重複回答)であった(表-1)。

表-1. 別荘地におけるカラマツの課題

項目	内容
落葉	屋根への蓄積, 雨樋のつまり テニスコートへの飛散
日陰	木が大きくなりすぎて日が当たらない 風通しが悪く建物に悪影響を与える
枝	電線等への荷重, 接触 建物, 車, 道路への落下 枝等が障害となって, テレビの映りが悪い
幹	芯ぐされ等による倒木の恐れ
その他	景観・展望が悪くなった 樹液(ヤニ)の衣服や自動車への付着

カラマツのもつ, 落葉性と高木性という特徴からの課題が挙げられた。これらへの対応としては, 別荘地内の共用部分に関しては管理者が, 別荘自体に関しては別荘所有者が, それぞれ対応していることが多い。一方, 以下に述べるように, 管理の放棄が近接別荘とのトラブルになることも指摘された。

カラマツがなぜ植栽されたかと言えば, 適度な木陰がもたらされること, カラマツの新緑や紅葉が美しいこと, 等が考えられる。このようなカラマツの持つ「快適性」と, カラマツがもたらす「不快適性」という生態系サービス間の軋轢が見られていた。様々な生態系サービス間にはトレードオフがあり, その解決には供給されるサービスごとのパッチをモザイク状に配置することが提案されている(4)。しかしながら, 別荘地のようなごく小面積の森林での生態系サービス間での軋轢の管理は, その森林に多くの機能を適切に発揮させることが必要となってくるだろう(1)。いずれ, 管理の状態が近隣に様々な影響を及ぼすことから, 森林にどのような機能を持たせ, 軋轢がある際にどのように調整・合意形成を図るかを検討する必要がある。

カラマツ以外の『現在』の課題については, 「所有者が手を入れていない土地は枯れ木が増えており景観維持が困難」「全く伐採を同意せず自然のままが良いと考えるオーナーもいる」「別荘地開発当初は協定により樹木伐採は控える指導をして来たが, 近年は樹齢30~50年と育ちすぎている」「アライグマ, ニホンジカ, イノシシによる庭や家庭菜園への被害」「野良猫の繁殖」「ニホンジカの駆除に否定的な別荘住人も多く対応に苦慮している」など

が挙げられた。別荘管理者は, 危険と思われる樹木などは別荘所有者に連絡を取り対処を依頼しているものの, 個人所有地であることから強制力はないことが指摘された。一方で, このような管理のあり方や野生生物への対応など, 別荘所有者間での自然観の違いが解決すべき課題に対しての対処の困難性を生み出していた。

カラマツ以外の『今後』の課題については, 「所有者の高齢化により管理ができなくなった土地, 今後建築する予定がなくなった土地の景観維持や売却対応」「廃屋になってしまった別荘がさらに増え, 周囲に生えている樹木も管理されないまま荒れていくこと」「相隣関係で揉めないような, 越境や枯れ木の管理」などが挙げられた。別荘地の管理についても, 相続先に関心がなければ, 管理が放棄されるなど, 一般的な林地と同様の課題として浮き彫りとなった。

謝辞: 荒川史子氏には, アンケート結果の送付およびとりまとめにご協力いただいた。別荘地の管理者には, アンケートのご回答にご協力いただいた。

引用文献

- (1) LAW, E., WILSON, K. A. (2015) Providing context for the land-sharing and land-sparing debate. *Conservation Letters* 8: 404-413
- (2) 中川重年 (1994) 検索入門針葉樹. 保育社, 東京, 188pp
- (3) OHSAWA, M., KURODA, Y., KATSUYA, K. (1994) Heart-rot in old-aged larch forests (I) State of damage caused by butt-rot and stand conditions of Japanese larch forests at the foot of Mt. Fuji. *Journal of Japanese Forestry Society* 76: 24-29
- (4) PALACIOS-AGUNDEZ, I., ONAINDIA, M., BARRAQUETA, P., MADARIAGA, I. (2015) Provisioning ecosystem services supply and demand: the role of landscape management to reinforce supply and promote synergies with other ecosystem services. *Land Use Policy* 47: 145-155
- (5) 佐藤大祐・澁谷和樹(2015)富士山麓における別荘の開発と利用形態. *地学雑誌* 124: 965-977